

東北地方、宮城県の沿岸部は、これまで何度も津波の被害にあってきました。どのようにして、その教訓を生かすことができるのでしょうか。

調べよう

過去の地震による津波の災害を調べ、津波から命を守るための行動を考えましょう。

869(貞観11)年の地震【M8.3】

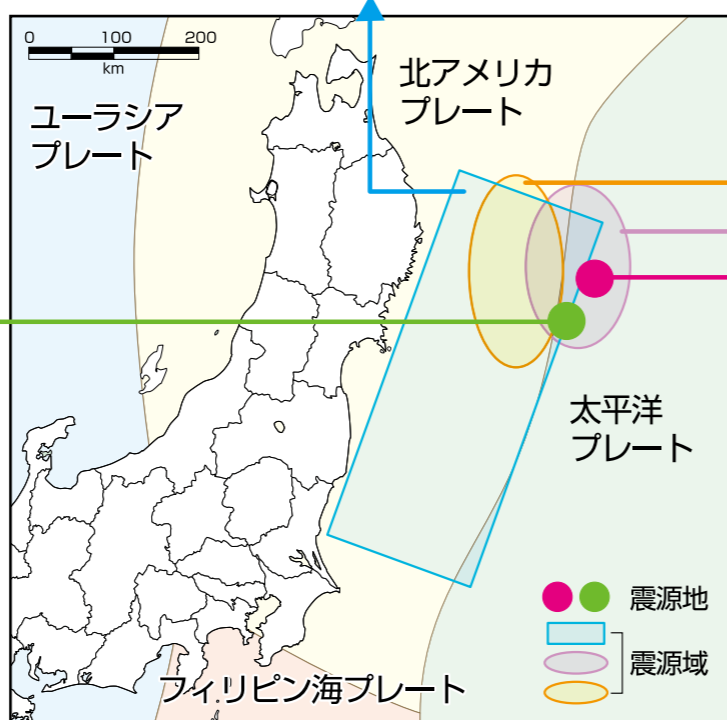
城郭、倉庫などが崩れ落ち、倒壊が多数。津波が襲来し、海水は城下(現在の多賀城市)にまで到達。

死者がおよそ1,000人。出典：仙台管区気象台



参考：(1) 著者名・穴倉正展 (2) 記事タイトル「津波堆積物からみた869年貞観地震と2011年東北地方太平洋沖地震について」(3) 出典元・日本地震学会 ニュースレター NL23-3, pp.23

2011(平成23)年【M9.0】東北地方太平洋沖地震の震源域



※貞観、慶長の地震は、詳しい解析に向け、今なお調査と研究が進められています。そのため、震源地のみを示しています。

参考：仙台管区気象台、内閣府 中央防災会議「東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震・津波対策に関する専門調査会報告参考図表集」、広島大学 片山郁夫著「プレート収束帯の地震発生について」

1611(慶長16)年の地震【M8.1】

三陸地方で強震。津波による被害が大きかった。伊達政宗領内で死者1,783人。宮城県岩沼市などにも津波がおし寄せた。

貞観、慶長の津波も内陸まで浸水したんだね。

出典：仙台管区気象台ホームページ

1896(明治29)年 明治三陸地震【M8.2】

午後7時半ごろ震度2～3の地震発生。三陸沿岸に地震後約35分で津波が襲来。死者4,693人(県内)。



気仙沼市唐桑町馬場地福寺にある当時の記録を残した石碑(1904年3月建立)



揺れが小さくても津波が来たんだね。

出典：宮城県災害年表 内閣府「災害史に学ぶ」中央防災会議「災害教訓の継承に関する専門調査会」編

1933(昭和8)年 昭和三陸地震【M8.1】

午前2時半ごろ震度5の地震発生。三陸沿岸に地震後約30分～1時間で津波が襲来。死者・行方不明者308人(県内)。



破壊された岸壁と打ち上げられた船(宮城県女川町)



石巻市北上町十三浜にある石碑(1934年3月建立)

出典：宮城県災害年表 内閣府「災害史に学ぶ」中央防災会議「災害教訓の継承に関する専門調査会」編

※M=マグニチュード

知ろう

宮城県沖地震(M7.4前後)

は、平均すると37年の間隔で発生しています。震源が海域のため津波が起こる場合があります。

また、チリ地震津波のように、太平洋をわたって津波がおし寄せる地域であることも知っておきましょう。

1000年後の命を守るための活動「いのちの石碑」

東日本大震災によって大きな被害を受けた女川町立女川中学校の生徒たちが、自分たちの手で1000年後の命を守るために活動しました。

1000年先まで記録を残す「いのちの石碑」プロジェクトとして、町内にある全ての浜に津波が到達した地点よりも高い所に石碑をつくろうと動き始めました。

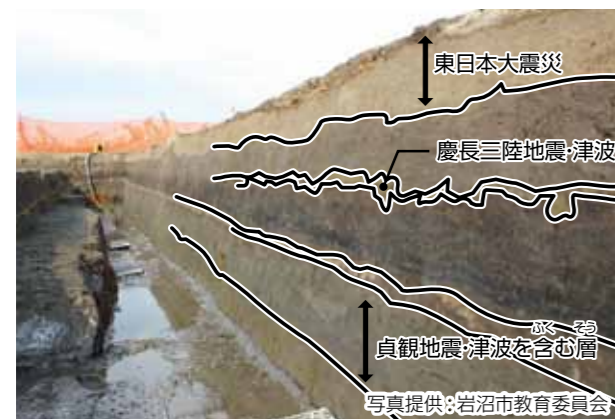


写真提供：女川町

生徒たちは、石碑をつくる資金を募るため、「100円募金」を呼びかけたところ、全国のみなさんから募金の協力がありました。



そして、定期的に石碑を清掃することで、震災の教訓を伝えていきます。



時代の異なる3層の津波堆積物を発見(岩沼市)